

降可能。そのあとすぐ中俣を合わせ、沢は平凡となる。

このまま終わるのかと思ったら、右俣を合わせたあとにきれいなナメが出てきた。滑谷沢との出合まで続く。最後は気分よくしめくることができた。

(記・)

[タイム] 杭甲山(11:00)→コル(11:15)→中俣出合(12:00)→滑谷沢出合(12:20)

杭甲沢

1985年9月22日

Lj

粟子トンネル手前に車を置き、旧国道(廃道)を滑谷沢出合まで歩く。滑谷

沢を少し下って杭甲沢出合へ。出合はヤブがかかり、ともすれば見逃しやすい。あとでわかったことだが、旧国道からここまで、踏跡がある。

9:35遡行開始。出合のヤブはすぐになくなり、沢らしい形態となり、ナメが断続的に出てくる。やがてF₁。3×6mのナメ滝で、軽くパス。

F₂ 3mもなんなく越え、二俣となる。水量の多い右俣に入る。

沢が左に曲がる所にF₃ 3mがかかり、そこより核心部となる。8個の滝が続くが、いずれも直登でき、なかなか良い遡行となる。

左より小沢が入り、F₁₀ 3mを過ぎると、水も少なくなる。やがて沢はルンゼ状となって水も濁れる。ルンゼを登りつめ、あとはヤブこぎ15分で杭甲山頂上に突き上げた。

(記・)

[タイム] 杭甲沢出合(9:35)→遡行終了(10:30)→杭甲山(10:50)

桂沢(下降)

1985年9月22日

L

旧国道より沢へ。入口部分がひどいヤブだったが、すぐに歩きやすくなり、沢

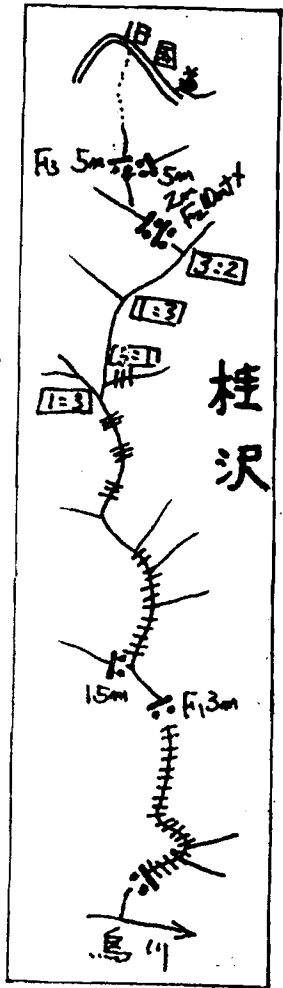
に出た。と、F, 5m. なんなく下る。ここには左岸より5m滝となって沢が合流していた。

このあとカーブをえがいてナメ状に落ちる10m滝があるが、それを過ぎると沢は平凡となり、いくつもの支沢が合わさるようになる。

沢の左手に炭焼き釜跡を見て進むと、ナメが断続的に出てくる。スケールは大きくないが、なかなか感じのよいナメである。このあたりで空模様があやしくなってきたので、ぐんぐんスピードを上げて下る。小滝を過ぎると、烏川本流は目の前であった。

(記)

【タイム】 下降開始(12:40)→烏川本流(13:30)

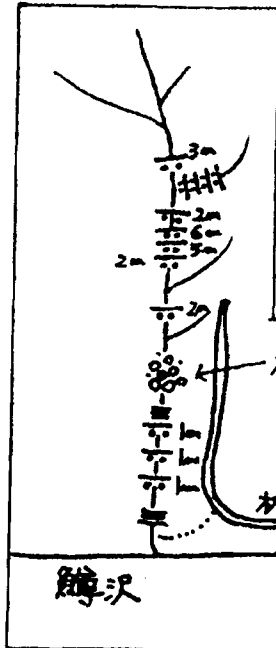


砂子沢

1985年10月5日

Location

鱒沢林道ゲート手前の広場に車をデポし、林道を歩くこと30分で砂子沢出合である。なお林道ゲートの所は、農道改良工事が進められており、林道上にかなりの落石が生じていた。



さて、遡行開始である。沢幅1~2mと、開始早々藪との戦いである。滝は1m程度のものが単発であり、半分あきらめ気分で進んでゆくと、突然目の前がひらけて、大小の岩が沢を埋めつくしていた。なんのことはない、林道工事の残土を沢に捨てたものである。

余談であるが、山の中とはいえ、同じ林業技術者として残念である。少し離れた所には、残土捨て場としても道地があったと思えるのだが。

さらに先に進むこと30分、2段7m、6mと、この沢最大の滝が出現した。左岸を木の枝を使って登る。さらにその上に2mの滝が続いた。この先、沢